

平成 13 年度第 9 回常務理事会議事録

日 時：平成 14 年 3 月 11 日（木） 15：00 - 16：50

場 所：ルーテル市ヶ谷センター「第 1 会議室」

出席者：

会 長：荒木 勤

副会長：野澤 志朗

理 事：落合 和徳、佐藤 章、佐藤 郁夫、武谷 雄二、田中 憲一、西島 正博、
藤井 信吾、村田 雄二

監 事：青野 敏博、佐藤 和雄、藤本征一郎

幹事長：塚崎 克己

幹 事：泉 章夫、岡本 愛光、小林 浩、古山 将康、斎藤 克、佐川 典正、
澤 倫太郎、清水 幸子、高桑 好一、阪埜 浩司、早川 智、平川 俊夫、
藤森 敬也、村上 節、矢野 哲

総会議長：高山 雅臣

総会副議長：小柴 壽彌、松岡幸一郎

事務局：飯島正一郎、荒木 信一

[配付資料]

第 9 回常務理事会業務担当常務理事報告並びに関連協議事項予定内容

1：第 8 回常務理事会議事録（案）

庶務 1：「国際機能分類（ICF）の仮訳についての教育用語委員会からの答申

庶務 2：日本医学会 100 周年記念式典並びにシンポジウムのプログラム

庶務 3：日本癌治療学会から「臨床腫瘍データベース委員会」への委員推薦依頼

編集 1：滋賀医科大学産科婦人科学教室講師および助手の公募広告掲載依頼（当日配付）

専門医制度 1：専門医の広告に関する大臣告示等

倫理 1：ホームページ上で公開された「代理懐胎に関する倫理委員会見解（案）」

倫理 2：生殖関連各学会への「代理懐胎に関する倫理委員会見解（案）」の送付状

倫理 3：本会生殖内分泌委員会への「XY 精子選別におけるパーコール使用の安全性に対する見解」に対する検討依頼書

倫理 4：本会生殖内分泌委員会からの「XY 精子選別におけるパーコール使用の安全性に対する見解」に対する検討結果報告書

倫理 5：本会会告「XY 精子選別におけるパーコール使用の安全性に対する見解」（平成 6 年 8 月）

倫理 6：本会旧会告「パーコールを用いての XY 精子選別法の臨床応用に対する見解」（昭和 61 年 11 月）

倫理 7：都内医院の「核移植によるいわゆる卵子若返り」に関する新聞報道

倫理 8：新聞報道による「核移植によるいわゆる卵子若返り」実施施設の本会登録状況

倫理 9：「卵子核移植によるいわゆる卵子若返り」に関する報道についての調査依頼書（当日配付）

倫理 10：「卵子提供による非配偶者間体外受精」の報道に関する本会会員への要望書（当日配付）

倫理 11：要望書に対する本会会員からの返答書（当日配付）

倫理 12：ニュースレター案（広島県の「卵子提供による非配偶者間体外受精」に関する報道への本会の対応について）（当日配付）

学会改革推進本部 1：第 1 次中期目標・中期計画（案）

学会改革推進本部 2：第 4 回日産婦学会・医会ワーキンググループ議事録（案）（当日配付）

15:00、会長・両副会長、常務理事の総数 11 名中、中野副会長を除く 10 名が出席した。荒木 勤会長が開会を宣言。荒木 勤会長が議長となり、議事録署名人として、会長及び庶務、会計の担当常務理事の計 3 名が選出された。また、議長から、野澤倫理委員長が都合により 15:30 に退席するので、 の報告事項並びに関連協議事項のうち、倫理事項の報告、協議を庶務事項の前に行いたいとの提案があり、承認され議事に入った。

・第 8 回常務理事会議事録の確認
原案通り承認した。

・報告事項並びに関連協議事項

1. 業務担当常務理事報告

1) 倫理委員会（野澤志朗委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（2 月 28 日現在審査中）

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：登録 77 施設

体外受精・胚移植、および GIFT の臨床実施に関する登録：登録 562 施設

ヒト胚および卵の凍結保存と移植に関する登録：登録 384 施設

パーコールを用いての XY 精子選別法の臨床実施に関する登録：機関誌 46 巻 8 号

(平成 6 年 8 月)において登録を一時中止以来登録なし、通算 17 施設

顕微授精の臨床実施に関する登録申請：登録 296 施設

非配偶者間の人工授精の臨床実施に関する登録：登録 27 施設

(2) 委員会開催

倫理委員会：第 12 回倫理委員会を 3 月 6 日に開催した。

倫理審議会：第 9 回倫理審議会を 3 月 8 日に開催し、諮問事項「提供胚の生殖補助医療への利用について」に関して集中的に協議した。

生殖医療部会 登録・調査委員会：第 4 回委員会を 3 月 19 日に開催する。

生殖医療部会 遺伝カウンセリング小委員会：第 4 回委員会を 3 月 6 日に開催した。本小委員会において産婦人科カウンセリング指導医（生殖）の制度及び講習会について前向きに検討している。

(3) 2 月 23 日に開催された第 4 回理事会にて、「代理懐胎に関する倫理委員会見解（案）」が承認された。同日、委員会提案として本倫理委員会見解（案）は本会会員用ホームページで公開した。また機関誌 54 巻 4 号に掲載され、6 月 30 日を締め切りとして本会会員から広く意見聴取する。[資料：倫理 1]

(4) 「代理懐胎に関する倫理委員会見解（案）」を関連学会である日本不妊学会伊藤晴夫理事長および野田洋一倫理委員長、日本受精着床学会毛利秀雄理事長宛に送付した（2 月 23 日）。さらに日本産婦人科医会坂元正一会長、日本泌尿器学会守殿貞夫理事長、日本アンドロロジー学会伊藤晴夫会長宛にも同倫理委員会見解（案）を送付した（2 月 25 日）。

[資料：倫理 2]

(5) 本会生殖内分泌委員会より「XY 精子選別におけるパーコール使用の安全性に対する見解」に対する検討結果報告書を受領した（2 月 14 日）。[資料：倫理 3、4、5、6]

野澤委員長 から本会会告「XY 精子選別におけるパーコール使用の安全性に対する見解」の再検討についての経緯が説明され、「今後、本会倫理委員会においてパーコールの XY 精子選別法への臨床応用について慎重に検討を進めていきたい」との発言があった。

本件に関して以下の議論がなされた。

武谷常務理事 「現在の会告は XY 精子選別法に限ってパーコールの使用を禁止しているが、その他の生殖補助医療にはパーコールを使用している事実がある。現場の混乱を本会として静観できない時期に来ているのではないか」

佐藤監事「本件については、議論するのを止めた方が良いのではないかと。発売元が PL 法を楯に消極姿勢の中で、敢えて学会として使用の許可は出せないのではないかと」

以上の議論を経て、今後本件については倫理委員会で慎重に協議、検討を行った上で再度諮ることとした。

(6) 都内医院の「核移植によるいわゆる卵子若返り」の報道およびその対応について協議し、本会登録・調査委員会武谷雄二地方連絡委員に調査を依頼した。[資料：倫理 7、8、9]

(7) 広島県の「卵子提供による非配偶者間体外受精」に関する報道に対して第 2 回理事会での議を経て、該当する本会会員に対し要望書を提出した(2月23日)。[資料：倫理 10]

本要望書に対し、本会会員より「学会の見解を理解しましたので今後は慎重に対応する」との陳謝の書状を受領した(3月4日)。[資料：倫理 11]

本件の経緯および本会の対応についてニュースレターにてホームページおよび機関誌上で本会会員に報告することを承認した。[資料：倫理 12]

2) 庶務(落合和徳理事)

[. 本会関係]

(1) 会員の動向

すがもといちぞう
菅本一三功労会員(大阪)が2月20日に逝去された。弔電、生花は辞退された。

[. 官庁関係]

厚生労働省

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課が推進している「健やか親子 21」から「健やか親子 21 推進協議会参加団体における平成 13 年度取組実績及び平成 14 年度行動計画の提出について」の依頼があった(回答期限：4月15日)。

本件に関し、本会から委員として参加している**佐藤郁夫常務理事**から「健やか親子 21 には 50 有余の団体が参加している。本会は日産婦医会、日本母乳の会等と同じグループに属し活動を行っている。明日(3月12日)行われる厚生労働省後援の公開シンポジウムでは、『妊娠・出産のアメニティと安全性』のテーマのもと、座長及びシンポジストとして参加する予定である。

その際グループ内で 13 年度取り組み実績と 14 年度の行動計画が議論される予定であるのでその結果を踏まえ、本会からの活動報告としたい」との説明があり、本件については佐藤郁夫常務理事に一任することを承認した。

青野監事から「健やか親子 21 の活動の一環である厚生科学研究の『助産所における安全で快適な妊娠出産に関する研究』に班長として私も参加しているが、今後各先生の協力を仰がなければならないケースもあると思うので、よろしくお願ひしたい」との関連報告及び依頼があった。

厚生労働省社会援護局障害保健福祉部から WHO で採択された「国際機能分類(ICF)の仮訳につき、意見があれば2月28日までに連絡するよう依頼があった。本件につき、第8回常務理事会の議を経て教育用語委員会に産科婦人科に係わる仮訳の検討を依頼し、その検討の答申を受領した(2月26日)。3月5日、本答申を本会意見として提出した。[資料：庶務 1]

[. 関連団体]

(1) 日本産婦人科医会

3月4日に第4回日産婦・日産婦医会のワーキンググループを開催した。[内容は学会改革推進本部の中で説明]

(2) 日本医学会・日本医師会

日本医師会から現疑義解釈委員の任期満了により、来年度以降の本会の疑義解釈委員推薦を本年度中に決定するようにとの依頼に接し、第4回理事会で諮った結果、佐藤和雄、落合和徳両候補への投票となった。結果、同数であったので、会長裁量で決することになっていた。

荒木会長 から「熟慮の結果、本会から落合和徳理事を疑義解釈委員として推薦したい。現疑義解釈委員の佐藤和雄監事には、5期10年にわたり大変ご貢献いただいたことに感謝申し上げたい。学会も生まれ変わろうとしている時であり、後進に道を譲っていただくが、佐藤監事には今後とも学会及び後進のため大所高所からご助言を賜りたい」との発言があった。

日本癌治療学会から「臨床腫瘍データベース委員会」を設置するにつき、本会から委員を推薦して欲しいとの書面を受領した(3月11日)。回答期限：3月29日[資料：庶務3]

本件につき協議の結果、野澤志朗副会長を委員として推薦することを承認した。

[. その他]

(1) 後援依頼

アジア内視鏡外科学会から、「アジア内視鏡外科学会2002(平成14年9月19日~21日、東京)」を開催するにつき、本会への後援依頼を受領した(2月26日)。財政的負担もなく、厚生労働省、文部科学省、各主要学会も後援予定であるので応諾することを承認した。

日本学術会議(予定)と日本超音波医学会の主催で「第7回アジア超音波医学生物学学術連合国際会議(平成15年5月17日~21日、宇都宮)」が開催するにつき、本会への後援依頼を受領した(2月26日)。

上記同様財政的負担もなく、行政、各主要学会も後援予定であるので応諾することを承認した。

「フィンレージの会」(不妊の問題に悩む人のためのセルフグループ、拓殖あつみ明治学院助教授、鈴木良子厚生労働省生殖補助医療部会メンバー等10名で組織)が中心となっている、世界不妊月間ジャパンプログラム実行委員会から、本会への後援依頼を受領した(3月4日)。財政的負担もなく、厚生労働省も後援予定とのことであるので応諾することを承認した。

(2) 転載許諾の申請

日経メディカル社から同社刊行「ガイドライン外来診療2002」に日産婦誌53巻6号の「日本人女性の更年期症状評価表」の引用許諾申請があり、応諾することを承認した。

3) 会 計 (佐藤郁夫理事)

とくになし

4) 学 術 (藤井信吾理事)

(1) 第54回学術講演会シンポジウム事後評価について

藤井常務理事 から「今回も従来通り事後評価を行うこととしたい。事後評価委員は、学術企画委員長、シンポジウム1「子宮頸癌の発生と進展-その制御を目指して」の課題選考小委員長、演者選考小委員長、座長、シンポジウム2「胎児wellbeingの臨床的評価法-その精度と限界」の課題選考小委員長、演者選考小委員長、座長、および両シンポジウムの企画・運営関係者以外からも若干名追加し、以下のメンバーとしたい」との提案があり、協議の結果これを承認した。

なお、今回も会場で参加者からアンケートを行う予定である。

第 54 回学術講演会シンポジウム事後評価委員会メンバー案

藤井信吾（学術企画委員長）

植木 実（シンポジウム 1 課題選考小委員長）

村田雄二（シンポジウム 2 課題選考小委員長）

加藤 紘（シンポジウム 1 演者選考小委員長）

水谷栄彦（シンポジウム 2 演者選考小委員長）

井上正樹（シンポジウム 1 座長） 岩坂 剛（シンポジウム 1 座長）

池ノ上克（シンポジウム 2 座長） 岡村州博（シンポジウム 2 座長）

嘉村敏治（シンポジウム 1 担当） 八重樫伸生（シンポジウム 1 担当）

西島正博（シンポジウム 2 担当） 秦 利之（シンポジウム 2 担当）

5) 編集（田中憲一理事）

(1) 会議開催

編集会議：3月11日に開催した。

4月5日に開催する予定である。

(2) 厚生労働省医薬局からの通知

「医薬品・医療用具等安全情報」No.174 を受領した（2月25日）

(3) 学会・研究会等の案内掲載依頼

第12回吊り上げ法手術研究会：平成14年6月27日～28日、札幌市

(4) 滋賀医科大学産科婦人科学教室講師および助手の公募広告掲載依頼について

滋賀医大学長 吉川隆一、産科婦人科科長 野田洋一氏から講師および助手の公募広告掲載依頼の文書を受領した。これにつき以下の協議があった。

西島常務理事 「会員にお知らせする価値のある情報と思う」

藤井常務理事 「近畿産科婦人科学会にも同様の依頼を受領している。近産婦学会では掲載料を徴収して掲載することとした」

武谷常務理事 「掲載する募集案件の範囲をどうするのかの問題であり、掲載料の問題ではない」

佐藤 章常務理事 「掲載は all or nothing の議論であるべきだ。掲載基準ができていない現段階では今回の依頼に関し応じることは無理ではないか」

村田常務理事 「会員のための利益という観点からも掲載する方向でゆくべきであると考え。基準作りは必要と思う」

落合常務理事 「掲載を拒む理由はない。本件は会員に向けての重要なメッセージになると考える。掲載料を取るかどうかは議論が別だが」

佐藤郁夫常務理事 「人材確保の観点からもこれが定着してゆくのであれば意味がある」

村田常務理事 「公的な役職であればいいと考える」

佐藤監事 「生化学会ですでに会員にこのような門戸を開いている。会員の要望は受け入れる方向でいいのではないか。学会員にメリットがあればいいと考える」

藤井常務理事 「実費を徴収して掲載する方向がよいと考える」

佐藤 章常務理事 「和文機関誌の掲載場所はどうか。実費を徴収するのであれば雑報欄では問題があるのでしかるべきページに掲載すべきである」

荒木会長 「以上の議論を踏まえ掲載することとしたい。ただし今後基準作り、掲載料の積算を編集委員会で詰めて欲しい」

協議の結果、本件に関しては掲載料を早急に決定して4月号に掲載することとした。

6) 渉外 (村田雄二理事)

[FIGO 関係]

とくになし

[AOFOG 関係]

AOFOG Secretary General の W.W.Sumpaico 氏を日本各都市のコンベンションセンター視察のため招へいし (2月16~22日)、2月23日の理事会で同氏が2007年のAOCOGの日本開催並びに日本への要望につきスピーチを行った。

[ACOG 関係]

JSOG-ACOG Joint meeting を第54回日本産科婦人科学会総会ならびに学術集会において開催することを決定した。参加メンバーは ACOG 側からは今回出席予定である現会長、前会長、次期会長ならびに Experts from USA の講演者、JSOG 側から荒木会長、村田渉外常務理事、落合庶務理事とし、4月5日(金)午後6時から開催することとした。村田常務理事 から「今後も年に一度程度の Joint meeting を開き、意見交換を行なう必要性がある」旨発言があった。

[その他]

とくになし

7) 社 保 (西島正博理事)

とくになし

8) 専門医制度 (武谷雄二理事)

(1) 地方委員会宛通知

平成14年度審査に係わる各種様式・出席証明シールと生涯研修実施報告書、卒後研修指導報告書、卒後研修医登録、全国地方委員会委員長会議の開催、地方委員会運営補助費等の留意事項に平成14年度事業計画を添え送付した(3月5日)。

(2) 筆記試験

平成14年度筆記試験問題選定委員会委員に委嘱状を送付した(2月25日)。

(3) 平成14年度専門医認定二次審査面接試験について

本年も従来通り面接試験を行うので、面接試験用の共通問題の作成を行う予定である。問題の素案は若干名の医育機関教授に依頼するが、最終案の調節は面接試験共通問題作成委員会委員により行う。

(4) 専門医認定制協議会から「専門医の広告に関する大臣告示案」を受領した(3月1日)。

2月25日付で発表された大臣告示改正案では、広告可能事項として、専門医の広告が盛り込まれた。[資料：専門医制度1]

本件に関し武谷常務理事 から「このたび、厚生労働省の社会保障審議会医療部会における医療に関する情報開示拡大の検討の中で、新たに広告可能事項として、専門医の広告が盛り込んだ改正案が専門医認定制協議会を通じ、本会に通知があった。当該案によると、具体的にどの基準を満たす団体から認定された専門医を対象とするかが示されているが、当然本会認定の産婦人科専門医は対象となる。施設としても、治療方法、手術件数、分娩件数などを広告開示できる内容となっている。

問題は産婦人科に関する Subspeciality だが、私の感想を言うと、会員数 1,000 人以上で学術団体としての法人格を有しているとの基準を満たしている学会が多く、さほど混乱はないのではないかと考えている。ただ、本会のように 9 割以上が産婦人科専門医と認定されている場合はともかく、1 割とか 2 割に満たない Subspeciality の領域の専門医に関わる認定基準の問題は波風が立つ懸念がある」との説明及び意見があった。

落合常務理事 から「千人程度の規模で法人格を持っているところは少ないと思うので、一定の歯止めはかかると思う」との意見があった。

荒木会長 から「今般専門医の広告を認める大臣告示等が出されたことを前向きに受け止め、Subspeciality に関する問題は専門医制度委員会等の中で検討して欲しい」との提案があり、これを承認した。

理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) **周産期に関する委員会** (村田雄二委員長)

とくになし。

2) **広報委員会** (佐藤 章委員長)

(1) 委員会開催

3月11日に第5回広報委員会を開催する。

(2) パスワード登録について

3月11日現在パスワード登録者は2,300名を超え、14.4%の登録率となった。

代議員の登録率は65.3%に上昇した。

因みに大学(理事が所属している大学のみ)内のパスワード登録率は26.6%であったので、登録推進を図ることを申し合わせた。

3) 学会のあり方検討委員会・学会改革推進本部(塚崎克己幹事長)

(1) 学会のあり方検討委員会

とくになし

(2) 学会改革推進本部

総会に呈示する第1次中期目標・中期計画(案)の詰めを行うべく、第5回通信会議(2月25日~3月1日)、第4回集合会議(3月1日)が行われた。[資料:学会改革推進本部1]

塚崎幹事長 から第1次中期目標・中期計画(案)について、第4回集合会議で追加された項目について説明があった。

3月4日に開催された第4回日産婦・日産婦医会ワーキンググループについて、議事録に基づいて**塚崎幹事長** よりその協議内容が報告された。

松岡副議長 から「日産婦医会理事会において当初は両会の機能連携について必ずしも十分な認識が行き渡っていない面もみられたが、その後、会議毎に協議を重ねるにしたがい認識は高まってきている」と説明された。

藤本監事 から「両会会費が高いとの批判があるが、日産婦医会会費について協議はされているか」との質問があったが、**松岡副議長** から「現在特に協議はされていないが、会費値上げを行った際、この問題について十分討議されている」と説明された。

4) 2007 第 20 回 AOCOG 誘致準備委員会 (中野仁雄委員長)
とくになし

・ 協議事項

1) 第 4 回理事会の整理

4 月 6 日開催の臨時理事会にて第 4 回理事会議事録 (案) の承認を求める予定である。

2) 第 54 回総会並びに学術講演会について
会長より進捗状況の説明がなされた。

3) その他

とくになし

(以上)